

「Artificial S 3」 Someone (Another someone) comes from behind.

後ろから誰か(他の)がやってくる 麥生田 兵吾

2015年4月28日(火)～5月10日(日)

11:00～19:00 月曜日休廊・金曜日

20:00まで・最終日のみ18:00まで

協力:金サジ・奥村元洋・守屋友樹・キャノン株式会社
特別協賛:株式会社グランマーブル

KG+
Gallery **P A R C**
GRAND MARBLE

後ろから誰か(他の)がやってくる 麥生田 兵吾

わたしは写真の前に立っています。
わたしが立つここに、あなたは来てくれて、そして同じに立つのです。
あなたは「わたしはここに立っている」、わたしと同じにそう思うことができます。
わたしはあなたのことをよく知りません。あなたもわたしのことをあまりよく知らないでしょう。そして写真の「中」(＝情報)に写る一人一人の殆ど全員を、あなたは(実はわたしも)全く親しく知りません。名前も知らない人たちです。そんな彼らが四角い写真の「中」(＝情報)にいます。しかし、わたしとあなたと同様に、誰かに呼ばれる名前をきっともっています。名前は個人の断片です。それにその個人そのものでもあります。
名を呼ぼうと一瞬息を吸う、それよりももっと一瞬の断片。

この場(主題:Artificial S)において、断片とは写真です。ここでの断片＝写真は、ひとつ時間の線に連続しません。ですから、それらが連続連鎖して生まれてくるストーリーはありません。複数の断片＝写真は、ひとつの壁、テーブル、空間の断面に置かれます。ある季節の、ある陽の高さの、影の長さの、ひとつの時間の断面に、置かれます。それは“今”に置かれています。

“今”は、肉体に應對して出現するようになっていきます。肉体は、記憶(アーカイブ)のように収まった情報ではなく、常に未知の情報にさらされています。記憶を持った肉体と未知との境界に、空間が現れます。その空間は広大でありながら、厚みのないものです。そのあり方の感じは、写真のあり方を考える時に口の中に広がる味に、大変良く似ています。

わたしもあなたも、同じ写真の前に立ちます。わたしとあなたは、手を繋ぐことも面と向かって言葉を交わすこともありません。“わたしたち”ともくれない関係ですが、しかし同じ写真(同じ場所)を前にしたなら、あなたとわたしは、別の時間と空間で重なることになります。重なるあなたをわたしは想像します。わたしのかぎりにおいて。

わたしの中に現れるあなたは、あなたに間違いありませんか？(しなくてよい質問ですが、尋ねてみたいのです。)

わたしは、不安に思うこともなく、私の中に現れるわたしを、私で間違いないと答えられません。

わたしはその不可能さがおもしろいです。感じるのではありません。不可能さそのものになるのがおもしろいのです。ほらこうなんです。わたし、パッパラパーなんです。

あ、そういえば、よく知らないどころか、わたしはあなたに会ったこともありませんでした。ここまでずっと、わたしの中に現れているあなたは、一体誰ですか？

わたしを思うわたしは誰ですか？

主題「Artificial S」について

私は作品の主題を「Artificial S」と定めて写真活動を行っています。意味は「人工的なエス」です。「エス」は、“感性”の“Sense”の、“誰か”の“Someone”の、“そういえば”と言っちゃうような時の“Souieba”の、または複数の、「S」を指します。主題は5つか6つほどの副題から構成されます。

昨年同ギャラリーで2章目にあたる“Daemon”の展示を行いました。今展は3章目になります。特に“人、人々、または複数形の人々(peoples)”をモチーフに扱った作品群です。

主題は全章つうじて「生死、死生」を表現します。

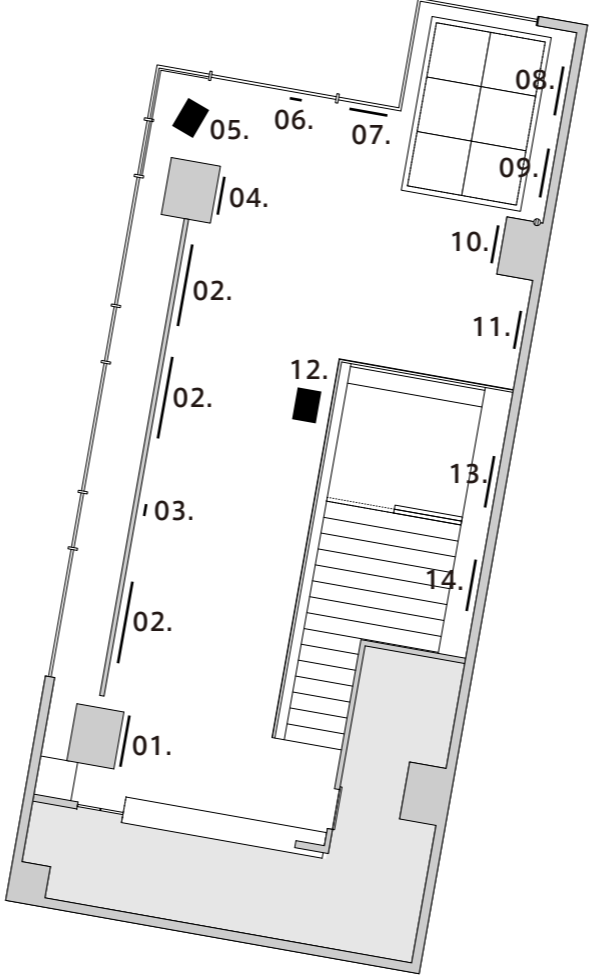
「生から死へ」というシーズンでは決してなく(「生」と「死」という切り分けられた瞬間(静止)ではなく)「生あること」を求めます。震える「生」です。

略歴

麥生田 兵吾 Mugyuda Hyogo http://hyogom.com 2010年1月より「pile of photographys」をweb上で更新中	
1976 大阪に生まれる	
2014 キャノン写真新世紀 2014 佳作受賞	
 - グループ展「2014 FOIL AWARD in KYOTO」(FOIL GALLERY・京都)	
 - 個展 「Artificial S 2」(Gallery PARC・京都)	
2013 グループ展「溶ける魚 つづきの現実」(京都精華大学ギャラリーフロール / Gallery PARC・京都)	
2011 グループ展 「in the waitingroom」(waitingroom/恵比寿)	
 - 「THE TOKYO ART BOOK FAIR 2011」(アーツ千代田3331 /秋葉原)	
2010 「THE TOKYO ART BOOK FAIR 2010」(アーツ千代田3331 /秋葉原)	

作品リスト		
01. 目をみせない二人 (1)	2015	インクジェットプリント
02. 人々	2015	インクジェットプリント
03. 盲人(祖父)	2015	銀塩プリント
04. 目をみせない二人 (2)	2015	インクジェットプリント
05. 2015 on 2004 (2)	2013・2015	インクジェットプリント
06. 盲人	2015	インクジェットプリント
07. 顔がみえない人	2014	インクジェットプリント
08. みる少年 (2)	2015	インクジェットプリント
09. みる少年 (1)	2015	インクジェットプリント
10. 顔をかくす人 (2)	2015	インクジェットプリント
11. 顔をかくす人 (1)	2015	インクジェットプリント
12. 2015 on 2004 (1)	2013・2015	インクジェットプリント
13. みる少女 (2)	2015	インクジェットプリント
14. みる少女 (1)	2015	インクジェットプリント

1階入口部分		
15. 川に少年	2014	インクジェットプリント
16. 川に少女	2015	インクジェットプリント



質問

●この展覧会について

私は作家活動において、「Artifishal S」という主題に取り組んでいます。この主題は5つから6つにわけて制作しています。今展は、そのうちの一つの写真表現になります。ここでは「みる、みせる、視覚がある」と「みない、みせない、視覚はない」という人々の姿を写しています。人々はカメラを向けられたことを知った時、こちらを意識してくれます。肉体はその意識を現しています。人々の心には、私も浮かんでいます。なによりカメラを向けられている自分自身の姿が浮かんでいます。彼らの心には、私と彼ら自身がともに浮かんでいます。彼らのそのような姿を写真を展示しています。そのような姿を写真の中に見つけたなら、あなたの心には何が浮かぶでしょうか。楽しみます。

●主題「Artifishal S」というは？

「人工的なエス」という意味ですが、最初期は「人工的な感性(人工感性)」という意味でした。人の感性は、社会、文化、歴史、あるいは特別な鍛錬などから形成されています。感性というものに、人はなかなか自覚的になれないものですから、それを客観視できるものになりたいと考えていました。または人工知能のように開発できないものかと想像していました。感性の観察は、私自身のものを扱い、写真表現の制作を与えておこないました。観察者はもちろん私です。結果、この観察によって、私はずいぶん変わってしまい、感性でもなんでも、そんなどうでもええねん。そう思うようになりました。色々はしょって説明すると乱暴ですが、でもそれもないなあという気がします。ただ「人工的な何か」でよいのです。「何かって何？」 エスは「何か」の代理としてふるまいます。そして、もう一度「だから何かって何？」という問いかけが生まれます。それに答えるのが、「Artifishal S」という作品です。

●webで公開している「pile of photographys」という取り組みは？
一度やめた写真活動を再会するきっかけになった活動です。毎日写真を撮って、毎日ブログ形式で発表していくというものです。一日でも途絶えることがあれば、そこで本当に写真活動をやめてしまおうと決めていましたが、かれこれ今年の5月2日に6年目に入ります。もうすこし続けられそうです。

●「pile of photographys」に取り組む中で自覚する変化は？
自覚できる変化は、たくさんあります。一つだけあげると、ずっとできませんでしたが、人に向き合って写真を撮ることができるようになりました。この展示の作品が全てそうです。(※祖父の写真をのぞく)

●本展「Artifishal S 3」とは？
主題「Artifishal S」の3つめにあたる作品です。直感的な言葉にするなら、謳歌。現在、ポートレイトを中心に表現を行っています。

●あなたにとって「ポートレイト」とは？

とくに自分自身を「人間」と自覚させるもの。それは重く沈め、熱く縛るもの。そしてだから同時に、それに反する力を欲求させるもの。なにより尊厳です。

●「写真」に取り組むきっかけとはどのようなものですか？
人からカメラを譲り受けたのがきっかけ。カメラがそばにあったから。

●写真とはどのようなものだと思うか？

この質問に、そのままシンプルに答えることはできませんが、今展のこれらの作品を思う時、もっとも印象にあるのは「まじまじと見る」という行為です。まじまじと見れるのは、写真が静止しているからです。この写真の完全無欠の静止は、とくに私の心の、普段は無自覚な、大変激しいあり様を感じさせてくれます。水がこんこんと湧き出るのに似た心の動的な様子です。静止しているものを前にしてこそ感じることできる、ありありした震えるイメージです。写真は心に対して、静止しています。だから余計に心の運動が際立ちます。

●写真を「とる」とは何を指す？

写真制作の工程の中の「撮る」を切り分けて答えるならば、「私にとっては・・・」と断りをいられるのであれば、「撮る」とは、立ちはだかる不可能を破り裂くことです。知っている事へ沈まず、浮かび上がろうとする事。とか言って、写真にとっての「撮る」は構造的なものです。切り分けることはできないでしょうから、「撮る」とは、写っちゃうものです。水を桶で掬う感じ。

●あなたにとって「写真をとる」うえで守っているコトは？

人は思い込むものです。だから、自分が何に思い込んでいるか、自覚できかぎりを注意します。そしてその思い込みとうまく付き合わなければいけません。細かい事はいろいろありますが、この展示のポートレイトの撮影に関して必ず守っていることは、その人に許しを得ること입니다。

●あなたにとって「写真をみる」うえで守っているコトは？

「みる」に守っている事柄はありませんが、「みる」に心を備えることをしないようにしています。

●絵画では出来ないで写真で出来るコトは？

写真は、“まるで”本当のように、本物のように振る舞い、しばしば人を無防備にします。

●写真では出来ないで絵画で出来るコトは？

絵画は、記憶(内面にあるものを、内面を通過するもの)を肉体を介して支持体へと出力されます。それは、肉体を持つひとの心に“ありあり”と映ることができます。

●あなたにとって「写真」では指せないものは？

ありすぎて答えられません！

●あなたにとって「世界」とは？

私の○○○。あなたの○○○。無数の○○○。わたしは○○○の一部なのに、わたしとあなたと他の○○○とは、はるかに遠い。だいたいこの○○○にはいる言葉が、セカイ。

●あなたにとって「みる」とは何を指すか？

私の内と、私の外の関係性のうちの一つです。内≠外、この≠は記号だけみると可逆的のようですが、不可逆的なようです。たとえば写真では特にそうです。Aをみた、私の内にAが現れた、そのイメージが欲求を生ませカメラで撮影しようとおもった、AをAに投げかける、Aが写真(A:A')になる。その写真(A:A')をみて、またことなるイメージが生まれた=A”。

●あなたにとって「作品」とは「つくる」とは何を指すか？

「作品」とは人が関わった「品」で、且つ人のそばに現れているもの。「つくる」とは、人に関わりようとするこ。だけど、誰が？ この質問を投げかけられたのは、麥生田ですので、その誰かは麥生田で、麥生田が人に関わりようとするこが「つくる」ということです。「麥生田→私」は、人の事を思います。人の事を思うことは、「私」を思うことから始まっているので、人を思うことは私を思うことに他なりません。ですが、私を「→人」と大きなイメージと同じに結んでしまうと、私は「≠私」を失ってしまい、私は人を思うことはできません。「私」を「=人」と同化を試みる一瞬の心地よさは、口にすぐ消えるラムネの美味しさのようで、お腹を満たしてくれません。私は「私」と私以外の「人」を区別しながら、「人」を思うことができます。これはすごいことだと思っています。当たり前のことだけど。私は私が何を言っているか、よくわからなくなりましたが、とにかく「つくる」は「私(あなたも)」が人に関わりようとするこです。

●あなたにとって「みせる」とは何を指すか？
とうとう作品を作品たらしめる行為です。

●詩や言葉とは？

イメージを言葉にする過程はすごく大切です。眼鏡で太陽の光を集めるように、得体の知れないものが・(点)に収束されるのが言葉だと思います。そして・と・を並べて響くイメージは、“ありあり”であり”今”です。「黄色いみかん」こんな単純な言葉だって、黄色い×みかんが響き合って、このように心に現るでしょう。「黒いみかん」もどうでしょうか。

●歴史と土地と人とは？

歴史も土地も人も、移ろうものですし、それらの姿を消失させるものです。なのに“かつて”を思い起こさせる何かが、どこかにどこにでも残っています。そして、それらは写真に写ります。

●何が美しいか？／何が醜いか？

今。この今／思い込むこと。

●何がかっこいいか？／何がかっこわるいか？
大きなものに立ち向かうこと／気づかないふり

●何が気持ちいいか？／何が気持ち悪いか？
かゆみに軟膏／忘れてたジャガイモの発芽

●何を望んでいるか／何を恐れているか
主題の完成／心を失うこと

●何を見たいか
自分の動いている心

●何をしたいか
生の中にいたい。生そのものでいたい。

●あなたにとって「人」とは？
尊厳

●あなたにとって「生あること」とは？
今であること！

●行ってみたい場所は？
チベットかも